

一般社団法人  
兵庫県病院協会

# 会報

● 発行 ●

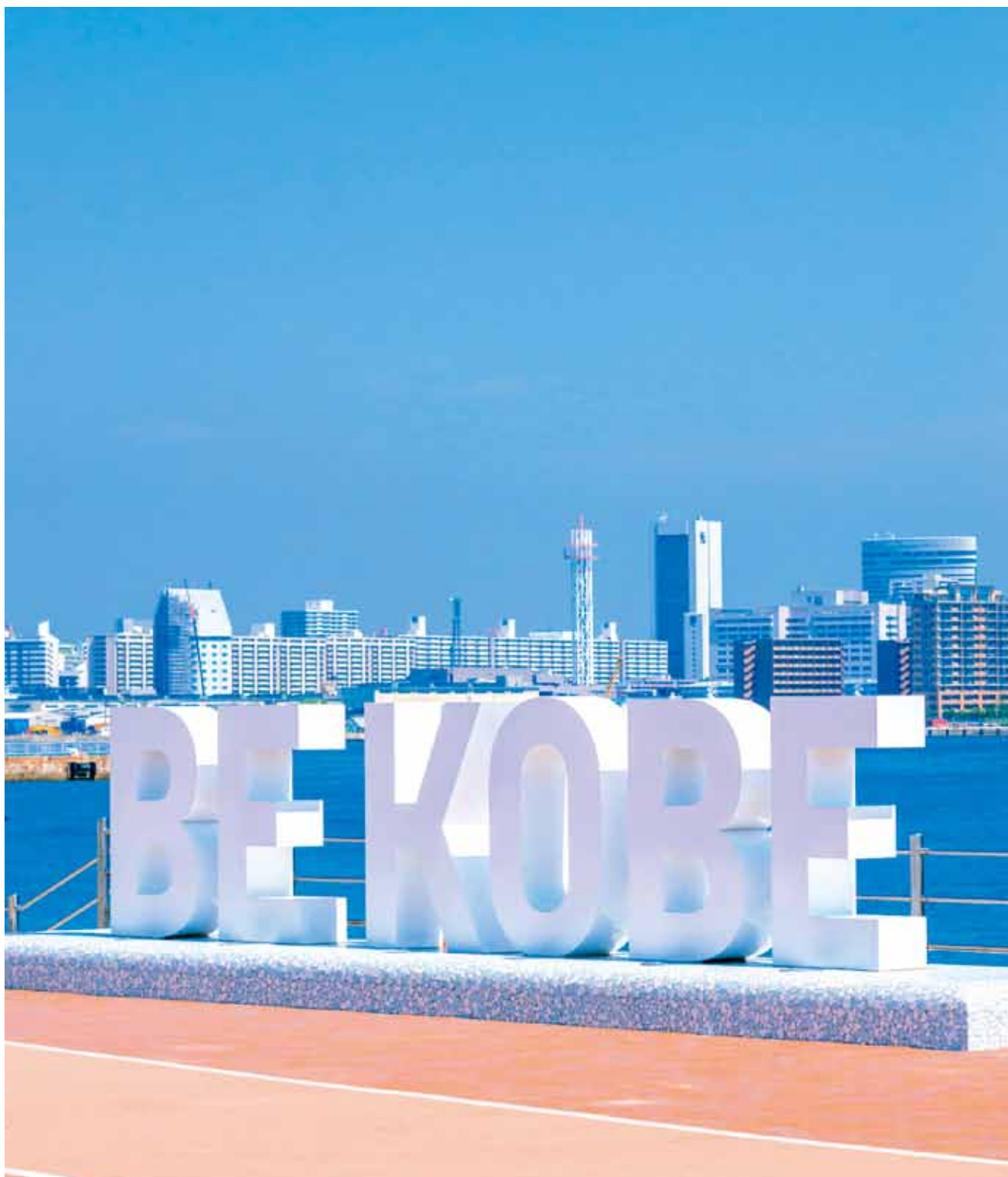
一般社団法人兵庫県病院協会  
〒651-0086

神戸市中央区磯上通  
6丁目1番11号  
兵庫県医師会館7F

TEL (078) 251-3030  
FAX (078) 251-3011

会報編集委員会

印刷 株式会社 七旺社



# 目次

## — 巻頭言 —

COVID-19禍とパルスオキシメータ

(一社) 兵庫県病院協会副会長 学校法人兵庫医科大学

理事長 太城 力良 (たしろ ちから) ..... 3

## — 随筆 —

コロナと共存するニューノーマル時代におけるストレスチェック

(一社) 兵庫県病院協会理事 医療法人社団さくら会 高橋医院

理事長・病院長 高橋 玲比古 ..... 4

COVID-19 そのあと

(一社) 兵庫県病院協会理事 医療法人社団緑風会 龍野中央病院

理事長・病院長 井上 喜通 ..... 6

## = 会員病院紹介 =

地方独立行政法人 神戸市立医療センター西市民病院

病院長 有井 滋樹 ..... 7

医療法人山伍会 播磨大塩病院

理事長・病院長 山本 英雄 ..... 9

## = 事務局短信 =

令和2年度 一般社団法人 兵庫県病院協会 (第6回) 定時総会開催報告 ..... 11

## = 編集後記 =

(一社) 兵庫県病院協会理事・会報編集委員

社会医療法人愛仁会 明石医療センター 名誉院長 澤井 繁明 ..... 12



〈表紙の写真〉

## BE KOBÉモニュメント(神戸市)

「BE KOBÉモニュメント」は、2017年に神戸開港150年を記念してメリケンパークに設置されました。いわゆる「インスタ映え」スポットとして人気です。「BE KOBÉ」という言葉は、阪神・淡路大震災から20年をきっかけに生まれた「神戸の魅力は人である」という思いを集約したメッセージです。新しいことに挑もうとする人や気持ちを愛する、そんな神戸を誇りに思う気持ちが込められています。

メリケンパークは真っ赤なポートタワー、帆船をイメージした神戸海洋博物館など神戸を代表する景観のひとつとなっています。阪神・淡路大震災の時には一部崩壊しましたがあえて修復せず、1997年に神戸港震災メモリアルパークとして整備され、震災の貴重な記録として保管されています。

近くにはショッピングモールなどもあり、港町神戸を代表する観光地として日々進化しています。

## 巻頭言

COVID-19 禍と  
パルスオキシメータ

(一社)  
兵庫県病院協会 副会長  
学校法人兵庫医科大学  
理事長  
太城 力良 (たしろ ちから)

本稿は、5月連休明けに書いています。緊急事態宣言が延長されましたが、大阪府は国を先導するように自粛制限の解除の基準を提示し、このような数値目標が示されると、少しは頑張れる気もします。会報に掲載される頃にはCOVID-19が完全に収束していることを心から願います。

私が属する兵庫医科大学病院では、3月上旬より阪神地区の指定感染症病床を持つ病院などからの紹介で気管挿管による人工呼吸やECMO装着が必要な重症肺炎患者の受け入れを開始し、集中治療管理をした症例は10名を超えました。現在の私は臨床には直接関与はしていませんが、元麻酔科医であり集中治療にも関わってきましたので、向学のためにCOVID-19肺炎患者の臨床経過を毎日チェックしました。そして肺炎の重症化への進行が極めて速いことに驚きました。同様の肺炎の急性増悪が、軽症と判断され自宅療養していた独居者の死亡が報告され、救急搬送されてきた到着時心停止例にてCT肺炎像がありPCR陽性だったという例もあります。このように、一旦、サイトカインストーム(免疫暴走)と呼ばれる状態になると増悪スピードが激しいのが、COVID-19肺炎の特徴と思われます。このような肺炎が重症増悪する前に早期に発見するには、パルスオキシメータによる連続的あるいは定期的な動脈血酸素飽和度(SpO<sub>2</sub>)測定が極めて有効です。それで、軽症者宿泊施設に収容した場合や自宅待機させた陽性者には体温と共にSpO<sub>2</sub>測定を毎日施行するの

が原則となりますが、需要が多くパルスオキシメータの入手が難しいようです。丁度、非接触型の体温計やサーモカメラが品薄で手に入らないのと同じ状況なのです。今後、一家に一台、特に高齢者がいる世帯では、体温計があるようにパルスオキシメータも簡便、安価で信頼性が高いものなので普及することが期待されます。

パルスオキシメータは、1975年に日本光電の青柳卓雄氏(本年4月逝去)により発明されました。その測定原理は、酸化ヘモグロビンと還元ヘモグロビンの光吸収スペクトルが異なることを利用して指先に2種類の赤色波長の光を透過させ、その透過光の拍動成分はドクドクと流れる細動脈のみ由来することを利用して、この部分の2波長の光吸収比をもとに解析して酸素飽和度を算出するものでした。

特許争いでは3週間の遅れをとったコニカミノルタ(当時はミノルタ)の山西昭夫氏のグループ(阪大・医・麻酔科も一員)が最初は光ファイバーにて誘導した発光部と受光部を持つ製品を開発し、その後、国産LEDを使用した指尖プローブを持つ小型機を販売しました。それを元にネルコア社の創始者New博士(麻酔科医)がディスプレイLEDプローブを作成し麻酔あるいはNICUモニターとして米国で普及させました。その結果、麻酔事故は劇的に減少し、酸素過多による未熟児網膜症の防止や、救急現場での救命率の向上にも貢献しました。New博士は大儲けし、最終的には会社を売って大金持ちになりました。日本では、1987年に昭和天皇が歴代天皇で初めて開腹手術を受けられた時に、パルスオキシメータ付きの自動血圧計を使用したことが文芸春秋に写真付きで掲載されたのが誘い水になり日本でも麻酔中の必須モニターとなりました。その結果、麻酔や集中治療の安全度が増し動脈血ガス採血の頻度も減少しました。2002年に日本麻酔科学会は、その測定原理を生み出した青柳氏の業績を讃えて社会賞を贈呈していますし、同時期に科学技術庁長官賞を受賞され、紫綬褒章も受章されました。

ヒトの呼吸中枢は、血液中の二酸化炭素が上昇すると即座に反応し、呼吸困難を感じ呼吸数や一

回換気量を上げます。しかし、酸素が低下した時には、その応答は鈍く脳細胞がダメになる直前にしか呼吸困難を感じません。パルスオキシメータは低酸素血症を早期に発見すると同時に脈拍数を表示し、脈の乱れも注意深く同期音を聞けばわかります。医療介護の現場だけでなく、スポーツ生理学や労働科学の分野でも活躍しています。パルスオキシメータの元祖が日本であるのに、現在の病院では外国製のパルスオキシメータが国内シェアの大部分を占めているのは残念なことです。信頼性、使いやすさ、耐久性を誇るのが日本製のはずで、COVID-19では、サージカルマスクをはじめ労働力の安い輸入品に頼り過ぎた弊害がでました。医療材料だけでなく人工呼吸器・ロボット手術機器などについても、国産化を考慮したさらなる取り組みが必要と思います。1950年代に小児マヒが世界的大流行をした時に人工呼吸器の開発が進んだように、ECMOや人工血液など酸素化を助ける手技のさらなる進歩も待ちたいと思います。

## 随筆

## コロナと共存する ニューノーマル時代における ストレスチェック



(一社) 兵庫県病院協会 理事  
医療法人社団さくら会  
高橋医院  
理事長・病院長 高橋 玲比古

皆さんは職場でストレスチェックを受けられたことがあるでしょうか？対象が被雇用者に限られるため、この会報を手にとられる皆様の多くは、受けられたことがないと思います。私もこの原稿を書くのに際して、初めて厚生労働省のサイトで受けてみました (<https://kokoro.mhlw.go.jp/check/>: 『5分でできる職場のストレスチェック』)。

ストレスチェックは2014年6月に成立した改正労働安全衛生法により、導入されました。その背景には、メンタルの不調を訴える従業員が増加してきていることがあり、国も本腰をいれて取り組むことになったのです。ストレスチェックの基本的な目的は、労働者自身のストレスへの気づきを促し、セルフケアにつなげることにあります。結果は本人のみが知ることができ、上司や雇用主は結果にアクセスすることはできません。対象は被雇用者に限られ、本人の申し出により実施するものです。ですから、ストレスチェックのデータを事業所全体の精神衛生対策の一環として有効活用することには難しい側面があります。

さて、ご存知のように2019年末に武漢で発生した新型コロナウイルスは全世界に広がり、各国で悲惨な状況を生み出しました。兵庫県でも3月に1例目の感染者が出て以来、その数は増加し、ついには緊急事態宣言が発出されました。このような中、感染症指定医療機関を始めとし、県内の多くの医療機関でコロナ患者の入院、外来診察が行われてきました。当院でも救急患者を中心に5月



中旬までにPCR検査を61回行い、陽性と確定した症例が3例、疑似症例の入院30例を経験いたしました。このような中、医師・看護師をはじめ、診療に直接関わる多くの医療従事者に相当の心身のストレスがあったものと推察されました。そこで、当院では職員においてストレスの度合いが昨年に比べてどのように変化しているか調べることにしました。

昨年、当院でストレスチェックを受けた職員の総数は115人でした。そのうち、匿名を条件にデータ利用の同意を得た30名の職員において、昨年の結果との比較調査をおこないました。対象は救急外来やCCUで働く看護師・臨床工学技士・臨床放射線技師です。

ストレスチェックの質問票は大きく4つのパートに別れています。

- ①職場における労働者の心理的な負担の原因に関する項目 (psychological stressors)。
  - ②労働者の心理的な負担による心身の自覚症状に関する項目 (psychological and physiological stress reaction)。
  - ③職場における他の労働者による支援に関する項目 (social support in the workplace)。
- そして
- ④職場と家庭での満足度に関する項目です。

この4つのパートでコロナ前後に変化があったか調べました。その結果、①、③、④では有意な変化は認めませんでした。②労働者の心理的な負担による心身の自覚症状に関する項目においては大きな変化を認めました。前年にくらべて、心理的な負担による心身の自覚症状が大きく悪化していたのです。この調査票は具体的には、イライラしているという設問に対してほとんどあった—1、ときどきあった—2、しばしばあった—3、ほとんどいつもあった—4の4段階評価で答えるようになっています。一部にはいきいきするといった肯定的な設問もあるため、そのような設問では集計に際して点数順序を逆にしました。(点数が高いほうが、ストレスが高い。) その結果、コロナの憂いのなかった昨年中の検査では点数が

1.99±0.94であったのに対して、今回は2.23±1.01 ( $p < 0.001$ ) と悪化していました。コロナの入院を受け入れていない当院においてさえ、このように職員の心身のストレスは増えているのですから、実際に多数の患者が入院されている施設では、職員の心身ストレスは相当悪化しているものと推察されます。

今回のパンデミックは、100年に一度の出来事と言われていています。この時代に巡り合わせた私達は、それぞれの立場でベストを尽くすことが医療従事者としての責務だと思います。管理者として為すべきことは様々ですが、職員のメンタルヘルスへの対応は最重要課題の一つであることを改めて認識いたしました。

皆さんの病院におかれましても、医師・看護師をはじめとするコロナ診療に関わる職員の皆様はもちろん、この会報を手にとられる管理者の方々もストレスチェックを一度受けていただくようおすすめいたします。ちなみに、私のストレスチェックの結果は『あなたはストレスをあまりかかえておらず、またストレスの原因となる要素もあまりないようです。』でした。

ストレスチェックの対象が被雇用者に限られている理由が良くわかりました。

# COVID-19 そのあと



(一社) 兵庫県病院協会 理事  
医療法人社団緑風会  
龍野中央病院  
理事長・病院長 井上 喜通

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の国内拡大により兵庫県内の病院にも緊張が続いております。

昨年 (2019年) 11月下旬より中国・武漢市にて肺炎をきたす感染者が流行しているとのうわさが流れました。

新型コロナウイルス感染症を巡る経過

1月 6日	厚労省が中国・武漢市の肺炎に注意喚起
16日	武漢市からの帰国者が国内初陽性
31日	WHOが緊急事態を宣言
2月 1日	新型コロナを感染症法の指定感染に
13日	神奈川県80代女性の国内初の死亡
22日	国内感染者が100人超となる
3月11日	WHOがパンデミックを表明
21日	国内感染者が1,000人を超える
4月 7日	7都府県に緊急事態宣言
8日	国内死者数が100人を超える
16日	緊急事態宣言が全都道府県に拡大する
18日	国内感染者が1万人を超える
5月 2日	国内死者数が500人を超える
14日	8都道府県を除き緊急事態宣言解除
21日	大阪、京都、兵庫の3府県で宣言解除
25日	首都圏、北海道も宣言解除

表に1月からの日本国内でのCOVID-19を巡る経過を示しました。

現在では感染者数17,000余人、死亡者数900余人となっています。

欧米でも2月中旬より急に感染が拡大し都市のロックダウン。国境閉鎖が行われたにも拘わらず世界の感染者840万人、死亡者45万人を数えています。国内では外出自粛、在宅勤務、休業要請、

学校の休校、さらに人と人との接触を回避する新生活様式の実行がなされ、社会活動に影響を及ぼしています。

台湾、韓国では2009年の新型インフルエンザ、その後のSARS、MARSの流行の教訓が生かされましたが、わが国では医療行政、医療体制の不備が露呈されました。

大規模な感染症が流行った後には、社会生活の変化が起こっています。

スペイン風邪の流行により第1次大戦の終結が早まり、ペストにより産業革命が進み、ニュートンの万有引力の法則もその時に発見されたと聞きました。

今回のCOVID-19での外出自粛、在宅勤務、などによりテレワークの促進、オンラインの活用による授業、診療etc. 勤務体制が大きく変化する兆しをみせています。

国境閉鎖と移動制限により労働の空洞化が進み農業生産、工業製品の供給にも支障が出ています。

世界各国が協力して新しい感染症に立ち向かい共存できる環境を構築すべきでしょう。

医療の第一線で活動している方々に心より感謝を申し上げます。

最後になりますがCOVID-19にて、当協会副会長の横野浩一先生が志なかばで急逝されました。公私ともに親しくしていただき、昨年もゴルフを供にして世間話に花を咲かせていたのが目に浮かびます。非常に残念です。ご冥福をお祈りいたします。



## 会員病院紹介

地方独立行政法人

### 神戸市立医療センター西市民病院



病院長 有井 滋樹



#### はじめに

沿革の項で述べていますように、本院は大正13年に設立された市立神戸診療所に起源を有し、現在の形となりました昭和45年から数えて、今年で開院50周年を迎えます。その間、阪神淡路大震災に遭遇しましたが、現在、独立行政法人神戸市民病院機構の一員として神戸市街地西部地域の中核病院、そして地域医療支援病院、そしてなによりも市民病院として地域の医療ニーズに応えることを大切に医療を提供しております。

この度、兵庫県病院協会から執筆の機会を賜りましたので、当院の概況について述べます。

#### 沿革

- 大正13年 3月 市立神戸診療所「長田区3番町」として発足
- 昭和3年 4月 市立神戸市民病院と改称
- 昭和28年10月 生田区加納町に本院（50床）を新築移転、それに伴い中央市民病院長田分院と改称（101床）
- 昭和32年 4月 市立長田市民病院と改称

- 昭和45年 1月 現在の位置に市立西市民病院開院（3,000床）、同時に市立長田市民病院廃止
- 昭和52年 4月 増築により370床となる
- 平成7年 1月17日 阪神・淡路大震災により本館全壊  
その後、仮設診療所、北館改修による診療などを経て
- 平成12年 5月11日 全館開院（358床）
- 平成19年 4月 市立医療センター西市民病院と改称
- 平成21年 4月 地方独立行政法人神戸市民病院機構へ移行、現在に至る

#### 医療体制

病床数358床を有し、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、神経内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科、総合内科、臨床腫瘍科、小児科、消化器外科、呼吸器外科、血管外科、乳腺外科、産婦人科、整形外科、泌尿器科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、放射線科、精神・神経科、麻酔科、リハビリテーション科、臨床病理科、救急総合診療部、そして昨年10月より開設された脳神経外科で構成されており、それぞれの科には専門医、指導医の資格を持つ医師が多数在籍しています。常勤医師数は117名、うち初期研修医は16名であり、「若手医師から選ばれる病院」として毎年、多くの初期研修医の応募をいただいております。看護部は約400名の看護師を擁し、うち専門看護師5名、認定看護師10名、助産師は23名です。薬剤部は19名、臨床検査技術部は20名、放射線技術部13名、リハビリテーション技術部20名、臨床工学室6名、栄養管理室5名のスタッフからなり、いずれも高度な専門性を有しています。

### 診療方針と現況

私どものミッションは市民病院として、更には平成25年に承認された地域医療支援病院として「安全で質の高い心のこもった医療」を提供することであり、不採算部門にも積極的にかかわっていくことです。現在の医療はその目覚ましい進歩により高度化かつ複雑化し、患者さんは高齢化しています。そのなかで「安全で質の高い心のこもった医療」を成し遂げるためには豊かな人間性に裏付けられた高い診療能力を有する医師と優秀で志の高い医療スタッフの連携によるチーム医療を推進することが要諦と考えています。

救急医療につきましては本院の重大な使命と位置づけ、全日24時間体制で行っており、昨年は約3,950件の救急搬送を応需しました。救急当番医は初期研修医2名を含む5名で行っており、研修医にとって高度なプライマリケア症例を豊富に経験できる場となっています。毎朝の救急カンファランスでは研修医が主体となり、前夜の救急患者の診療について多くの上級医の前でプレゼンを行っています。初期研修医7名定員に対して25-30名の応募がありますが、病院見学に来た彼女たちがもっとも関心を寄せる場所となっています。

がん診療は本院の柱のひとつです。平成24年に兵庫県のがん診療連携拠点病院に準じる病院に指定されました。4年前に手術支援ロボット（ダヴィンチ）を導入し、泌尿器系手術、呼吸器外手術、婦人科手術、消化器手術に活用しています。

最後に、(独)神戸市民病院機構の第3期中期目標における西市民病院の役割を示します。それは良質の急性期医療を根幹とし、加えて

- 1) 地域の患者を24時間受け入れる救急医療提供
- 2) 地域のハイリスク出産に対応できる周産期医療の提供
- 3) 地域医療に対応した小児医療の提供
- 4) 地域の高齢化により増加する認知症患者に対する専門医療の提供、一昨年11月より神戸市指定の認知症疾患医療センターを開設
- 5) 市の施策と連携した生活習慣病への重症化予防に向けた取り組み（神戸DMネット、禁煙

教室その他多くの市民向け活動など)の5項目です。

平成27年には地域医療推進課と在宅支援室を統合し、24名からなる地域医療在宅支援室を設置しました。これを最前線として地域に密着し、地域のニーズを的確に捉え、それに対応するきめ細かい医療、単に治す医療から治し支える医療を実践しています。

### 当院の果たすべき役割と将来展望

地域医療構想において期待される病院機能は神戸市街地西部の中核病院として良質の急性期医療を展開することと考えます。そして地域包括ケアシステムの中で各医療機関が連携し、急性期医療から在宅医療・介護までをシームレスに展開するなかで、私どもの使命は急性期医療を担っていくことと思います。この一環として3年前に開設した地域包括ケア病棟（37床）を本年9月に閉じ、急性期病棟に戻す予定であり、一層の連携が重要と考えます。そして市民病院としては不採算部門に対しても積極的にかかわっていくこと、さらに私どもの地域では入院できる小児医療施設がないこと、分娩のできる公的病院がないことから、しっかりと小児周産期医療を行っていくことも大切な責務と考えます。

令和元年度は昨年度に比べて新入院患者、初診外来患者、手術症例、救急搬送患者など全ての臨床指標が大幅に向上したことから、地域の大きな医療需要の存在に自信を深めることができました。さらに診療・看護のレベルを向上させ、高度で複雑な医療にふさわしい設備を充実させ、近隣の方々に良質で安全な医療を供給し続けてまいりたいと思います

### おわりに

この原稿を執筆している6月初旬、兵庫県ではとりあえずCOVID-19が収束してきたようです。病院は快適で美しくなければならないと思い、着任以来、病院の美化にそれなりの投資をしてきましたが、これからは災害に強く、新興感染症に対応できる病院でなければならないと思います。ま



た、加速度的に臨床現場に入ってくるであろうAI・ICT、オンライン診療などについても積極的に取り組んでまいりたいと思っています。最後になりましたが今後とも会員の皆様との連携を深めてまいりたく存じますので、よろしく願いいたします。



内科外来（サイン、カーペット、椅子を新調）



手術支援ロボット（ダヴィンチ）による手術風景

医療法人山伍会

## 播磨大塩病院



理事長・病院長 **山本 英雄**



### 病院概要

名称：医療法人山伍会 播磨大塩病院

所在地：〒671-0101

兵庫県姫路市大塩町1096番地

診療科目：精神科

理事長：山本 英雄

病院長：山本 英雄

病床数：278床（精神278床）

敷地面積：9,917㎡

延床面積：9,009㎡

職員数：180名（非常勤30名）

### 沿革

昭和33年（1958年）10月 印南郡大塩町1096番地に精神・神経科病院として開設

昭和34年（1959年）4月 兵庫県指定精神病院となる

昭和38年（1963年）5月 増築により病床数240床に変更

昭和54年（1979年）5月 本館改築  
病床数280床に変更

		医療法人山伍会播磨大塩病院に組織変更
昭和61年（1986年）	4月	病床数302床に変更
平成9年（1997年）	5月	新管理棟完成 病床数278床に変更
平成18年（2006年）	5月	新デイケア棟開設 福祉ホームB型「ウェルネスホーム伍楽園」開設
平成29年（2017年）	6月	メンタルクリニック心 和開設 訪問看護ステーション「心の駅」開設 相談支援事業所「そると」開設

播磨大塩病院は姫路市の南東部に位置する、その名の通りかつては製塩業で栄えた大塩町の山裾、瀬戸内の温暖な気候と、海と山に囲まれた落ち着いた環境の中にあります。

当院は昭和33年10月に、現在の地に精神科・神経科の専門病院として開設されました。その後病床数も次第に増加し、昭和54年には280床の本館が完成、医療法人山伍会に組織変更しています。そして平成9年5月には現在の新管理棟と278床の新病棟が完成し、平成29年には山陽電鉄大塩駅前に「メンタルクリニック心と和」を新設して、より地域に密接した医療の提供を行なうと共に、児童・思春期にも対応できる小児科および心療内科を設けています。

現在の病床数は278床で、精神一般病棟110床、精神療養病棟168床と機能別に運営しています。入院患者さんは統合失調症・そううつ病が、75%を占めています。近年施設で対応困難なケースで認知症の受け入れも17%と増加しています。できるだけ短期での入院治療により住み慣れた自宅・施設に復帰していただくことを目指し、精神的なケアだけでなく、身体的なりハビリも取り入れております。精神科作業療法、デイ・ケア、デイ・ナイトケア、訪問看護、心理検査、カウンセリング、救急医療体制、退院支援等の精神科に特化し

た医療看護サービスを展開しています。

また法人敷地内にデイ・ケア棟、グループホーム「ウェルネスホーム伍楽園」を、山陽電鉄大塩駅前に訪問看護ステーション「心の駅」、相談支援事業所「そると」、居住アパート「リブナイスリー」を併設し、地域移行支援の本格的な取り組みを行なっています。更に医師の臨床研修をはじめ、看護師、作業療法士、精神保健福祉士等の実習協力病院として、新しい人材の育成にも協力しています。

平成26年9月より電子カルテを導入し、患者さん情報の共有化により業務の効率化を進め、患者さんサービスに努めています。コロナ対策として遠隔治療が推進されていますが、精神科領域では、多くの課題も残ります。退院後の通院中断による症状悪化を防止するためにも、通院負担を減らし受診率を向上させるためにも遠隔治療は有効と思われれます。

高度に複雑化した現代社会は快適な生活をもたらしましたが、知らず知らずに蓄積するストレスは心を蝕み、個人の社会適応を難しくしています。その治療には患部を目視して切除する外科的な治療や、高度先端医療設備・機器は残念ながら通用しません。ご本人やご家族とは時間を掛けて信頼関係を築き、相互理解を深めながら治療の方針を確立させる事が必要です。治療や看護に当たっては医師のみならず、作業療法士、臨床心理士、精神保健福祉士など様々な分野の専門家がバックアップしながら患者様の日でも早い回復を応援していきます。

医療、ことに精神科医療を支えるのは人であるという観点から、人材の育成に努める事こそが大切であると考え、新しい人事考課制度を院長が先頭に立って進めています。現在は新型コロナウイルス感染予防のため休止していますが、院内の各種研修会の開催や院外の研修会への参加を奨励し、スタッフの自己研鑽を勧めています。定期的に家族教室を開催し退院後も連携がとれる関係を保つことで、ご家族にも安心して頂けるよう心掛けております。

「時代に沿い、今を生きる」という当院理念に

沿って、現在ある、また今後も生じてくるであろう新たな課題に対応しつつ、地域の皆様に、「信頼、安心、安全」を提供できるよう努め、満足される精神医療の実践を目指していきます。



大塩町全景



心理検査・カウンセリング

## ＝事務局短信＝

### 令和2年度 一般社団法人 兵庫県病院協会（第6回）定時総会開催報告

通常、定時総会時に兵庫県知事感謝状贈呈式・永年勤続病院職員表彰式、記念行事を併せて開催することとしていたが、新型コロナウイルス感染症の発生等の状況を踏まえ、罹患リスクの低減を図るため、今年度は、定時総会の開催とした。

#### 1 第6回定時総会

令和2年度第6回定時総会は、6月13日（土）兵庫県医師会館6階2・3会議室において、協会会員等のご出席を得て開催された。

開会に先立ち、事務局から会員数197名のうち、表決委任を含めた出席者が177名であり、定款・会則に定める総会の審議・議決に必要な定足数に達していることが報告された。

定刻の午後1時30分、太城副会長が第6回定時総会の開会宣言を行い、守殿会長の挨拶があった。

引き続き、定款に従い守殿会長が議長を務め、議事録署名人として守殿会長、大村副会長、杉村副会長の3名を指名の後、次第に従い議案審議に入った。

最初に、太城副会長が「令和元年度事業報告」及び「令和2年度事業計画」、「令和2年度収支予算」について説明した後、承認を得た。

続いて、大村副会長が第1号議案「令和元年度収支決算について承認を求める件」を説明した。次に、佐藤監事から監査結果報告を行い、第1号議案は原案どおり承認された。

次に、守殿会長が第2号議案「理事の選任（補充）の件」を説明し、第2号議案は原案どおり承認された。

最後に、守殿会長が閉会宣言を行い、滞りなく定時総会が終了された。

**編集後記**

今年6月の中旬にシベリアの気温が38度に上昇したとの報道がありました。また南極では気温20度くらいで経過しているとのこと、世界中で異常気候が認められています。明らかに地球環境の異常が肌で感じられます。

トランプ大統領は無視していますが地球温暖化は着実に進んでいます。最近やっと再生エネルギーに力を注ぐようになり産油国は石油の枯渇の心配より石油の需要の減少を気にするようになってきているようです。

新しい感染症も環境変化によりこれからも出てくるように思えますが、今現在はコロナ感染の終息に全力を挙げて取り組まねばなら

ないときです。

この会報夏季号もコロナ感染についての記述が主となっていますが当たり前のように使っているパルスオキシメーターが日本で発明されていたのには驚かされました。

最後に、大変お忙しい中、執筆にご協力していただきました先生方並びに原稿整理の労を担っていただきました事務局の方々に心より感謝いたします。

(一社) 兵庫県病院協会理事・会報編集委員

澤井 繁明

社会医療法人愛仁会 明石医療センター 名誉院長 記

